

氏名	石井 桂輔
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第 1321 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	Impact of the COVID-19 pandemic on a trauma center of a university hospital in Japan (COVID-19 パンデミックが日本の大学病院外傷センターに与えた影響)
指導教員	教授 鈴木 卓 (板橋・救急医学)
論文審査委員	主査：山下 雅知 教授 (ちば・ER) 副査：中川 匠 教授 (板橋・整形) 副査：宮本 英明 講師 (板橋・整形)

論文審査結果の要旨

主論文

「Impact of the COVID-19 pandemic on a trauma center of a university hospital in Japan (COVID-19 パンデミックが日本の大学病院外傷センターに与えた影響)」は、Journal of Orthopaedic Science(IF: 1.60)に掲載された申請者を筆頭著者とする原著論文である。

論文および審査の内容

新型コロナウイルスの世界的大流行(パンデミック)は、グローバルな医療危機を引き起こしたばかりでなく、流行地域のすべての国において、甚大な社会的、経済的、そして政治的危機をもたらした。そこで、本研究は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが、日本の大学病院外傷センターにおける外傷手術症例数およびその重症度に与えた影響を明らかにし、今後新たなパンデミックが生じたときの対応に生かすことを目的とした。人口 190 万人の医療圏の救命救急センターに併設された外傷センターにおける後ろ向き観察研究である。新型コロナウイルス感染症による最初の緊急事態宣言の期間(2020 年 4 月 7 日から 2020 年 5 月 25 日まで)を対象として、外傷手術件数、症例の年齢、性別、手術の診断名、部位、術式を調査した。2019 年 4 月 9 日から 2019 年 5 月 27 日までの期間を歴史的対照期間として 2 群間で比較した。手術症例総数は対照群 151 例に対し、緊急事態宣言中は 83 例であり 45%減少していた。手術時の患者年齢は対照期間平均 47.9 歳から 58.3 歳と高齢化していた。開放骨折症例は対照期間での 12 例から 6 例と減少した一方、高齢者に多い大腿骨近位部骨折症例は 9 例から 19 例と増加していた。3 次救急不応需例は対照期間の 0 例から 6 例と増加し、2 次救急不応需例は対照期間の 47 例から 30 例に減少した。緊急事態宣言中の人流の抑制、社会活動の制限などにより、3 次救急対応の四肢、脊椎の高度外傷症例が減少した一方、2 次救急対応である高齢者の骨脆弱性骨折症例が増加していた。当外傷センターに 3 室ある 3 次救急対応初期診療室が感染防止対策のゾーニングのために、1 室しか稼働できない問題点が明らかになった。本論文は今後の医療体制の構築に有用な新知見が含まれていると考えられる。

2023 年 1 月 7 日に行われた学位審査において、申請者は当該領域の十分な知識と経験を有していることが確認された。

以上より、学位授与に値すると判断した。